まえがき

『初歩から学ぶ基礎物理学 熱・波動』(第 日本図書)の熱分野で現れる法則・公式をま とめました。

演習は単なる算数ではなく思考の実体験の 場です. 意味記憶だけではなく,エピソード 記憶として法則・公式を自身の思考に取り入 れてもらえることを願っています。

習得してから公式集を振り返ると,物理教 師がよく言う「公式は暗記するものではな い、理解するものだ」という台詞の意味を実 感してもらえるはずです。

> 釧路高専(物理) 松崎俊明

(2016-12-15)

がい		0/19
熱	Ļ	
1	熱エネルギー	0
2	気体	7
3	熱力学	12

0/10

埶

熱エネルギー

- 1 摂氏と絶対温度
- 2. 熱の仕事当量
- 3. 熱容量と温度変化
- - 4. 熱容量と比熱
 - 5. 線膨張率
 - 6. 体積膨張率

7. 熱伝導率

$$T = t + 273.15$$

【摂氏と絶対温度】(p. 11) T[K]: 絶対温度 $t[^{\circ}C]: 摂氏温度$

$$J=4.19 (\mathrm{J/cal})$$

【熱の仕事当量】(p. 12)

 $Q = C\Delta T$

【熱容量と温度変化】(p. 14) Q [J] : 熱量

C [J/K] : 熱容量

 ΔT [K] :温度変化

C = mc

【熱容量と比熱】(p. 15) C [J/K] : 熱容量 m [g] : 質量 c [J/g·K] : 比熱

$$l = l_0(1 + \alpha \Delta T)$$

```
【線膨張率】(p. 23) l [m] :変化後の長さ l_0 [m] :元の長さ \alpha [K^{-1}] :線膨張率 \Delta T [K] :温度変化
```

$$V = V_0(1 + \beta \Delta T)$$

【体積膨張率】(p. 23) $V [m^3] : 変化後の長さ <math>V_0 [m^3] : 元の長さ$

 β $[K^{-1}]$: 体積膨張率 ΔT [K] :温度変化

$$Q = \kappa S \frac{\Delta T}{l}$$

【熱伝導率】 $_{(p.\ 26)}$ $_{Q}$ $_{[W]}$: 流れる熱量 $_{\kappa}$ $_{[W/m\cdot K]}$: 熱伝導率 $_{\Delta T}$ $_{[K]}$: 温度差

l [m] :長さ

気体

- 8. 圧力
- 9. ボイル・シャルルの法則
- 10. 理想気体の状態方程式
- 11. 分子による圧力

12. 単原子分子の内部エネルギー

8/19

【圧力】(p. 30)

p [Pa] : 圧力

F [N] :力

 $S[m^2]$:面積

9/19

(p. 35)

$$\frac{pV}{T} = (-\cancel{\Xi})$$

【ボイル・シャルルの法則】

p [Pa] : 圧力

 $V[m^3]$:体積

T[K]: 絶対温度

pV = nRT

【理想気体の状態方程式】

(p. 38)

p [Pa] :圧力V [m^3] :体積

 $n \quad [m] \quad :$ 本領 $n \quad [mol] \quad :$ モル数

R [J/mol·K] :気体定数

T [K] :絶対温度

$$p = \frac{Nm\overline{v^2}}{3V}$$

N [個] : 分子の個数

m [kg] : 分子一つの質量

 $\overline{v^2}$ [(m/s)²] :速度の二乗の平均

V [m³] : 体積

$$U = \frac{3}{2}nRT$$

【単原子分子の内部エネルギー】 (p. 48)

: 内部エネルギー U [J]

n [mol] :モル数

R[J/mol·K]: 気体定数

: 絶対温度 [K]

3 熱力学

- 13. 熱力学第1法則
- 14. 気体が外部にした仕事
- 15. ポアソンの法則
- 16. マイヤーの関係式
- 10. マイドーの関係が
- 17. 熱機関の効率
- 18. エントロピー
- 18. エントロヒー19. カルノーサイクルの効率

$$\Delta U = Q + W$$

【熱力学第1法則】(p. 53) $\Delta U[J]$:内部エネルギーの変化

Q[J]:外部から吸収した熱

W[J]:外部からされた仕事

$$W = p\Delta V = \int p \, dV$$

【気体が外部にした仕事】

(p. 55, 57)

W [J] : 気体がした仕事

p [Pa]: 気体の圧力

 ΔV [m³] : 気体の体積変化

$$pV^{\gamma} = (一定)$$

【ポアソンの法則】
$$(p. 63)$$
 p [Pa] : 圧力 V [m³] : 体積 γ : 比熱比 $(=C_n/C_V)$

$$C_n = C_V + R$$

【マイヤーの関係式】(p. 66) C_p $[J/mol\cdot K]$: 定圧比熱 C_V $[J/mol\cdot K]$: 定積比熱 R $[J/mol\cdot K]$: 気体定数

$$\eta = \frac{W}{Q_{\rm H}} = 1 - \frac{Q_{\rm L}}{Q_{\rm H}}$$

【熱機関の効率】(p. 72)

: 熱効率 W [J]: 熱機関がした仕事

 $Q_{\rm H}$ [J] : 受け取った熱

Q_L [J]: 放出した熱

 ΔS [J/K] : エントロピー変化

$$\Delta S = \frac{\Delta Q}{T}$$

 ΔQ [J] :系が得た熱 T [K] :温度

$$\eta_{\mathrm{c}} = 1 - \frac{T_{\mathrm{L}}}{T_{\mathrm{H}}}$$

【カルノーサイクルの効率】

(p. 80)

: 熱効率 η_c

T_L[J]: 低温熱源の温度 TH [J]: 高温熱源の温度